

JR東日本と東京大学、100年間の産学協創協定を締結

～日本で初めてプラネタリーヘルスをテーマにしたキャンパス「東京大学 GATEWAY Campus」開設～

- 東日本旅客鉄道株式会社(以下「JR東日本」)と国立大学法人東京大学(以下「東京大学」)は、100年先の心豊かな暮らしの実現に向けて、「プラネタリーヘルス」を創出するために、100年間の産学協創協定(以下「本協定」)を締結しました。
- プラネタリーヘルスの創出を目的とした協創プロジェクトPlanetary Health Design Laboratory(以下「PHD Lab.」)を立ち上げ、JR東日本グループの駅・鉄道といったインフラを実験場として、東京大学の多様で先端的な知を実証し、未来の暮らしづくりに取り組みます。
- PHD Lab.の拠点として、2024年度末にまちびらきをむかえるTAKANAWA GATEWAY CITYに、日本で初めてプラネタリーヘルスをテーマにしたキャンパス「東京大学 GATEWAY Campus」を開設します。街を実験場として、世界中から集まる地球規模の社会課題の解決に取り組みます。



1 産学協創の概要

(1) 協創のビジョン「プラネタリーヘルス」

「プラネタリーヘルス」とは、人の経済活動が、健康や都市環境、地球上の生物・自然に与える影響を分析し、「人・街・地球」の全てがバランスよく良好に保たれるような暮らしづくりを目指す考えです。

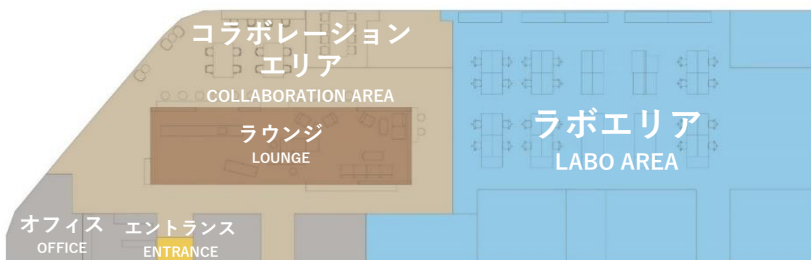
TAKANAWA GATEWAY CITYをはじめとした様々な実験場となるインフラを有するJR東日本グループと、多様で先端的な知を創出する東京大学が連携し、「人・街・地球」の全ての健康のバランスが取れ、100年先の未来につながる、持続的な暮らしづくりに挑戦します。

(2) 協創の主な内容

プラネタリーヘルスの実現に向けて、協創プロジェクトPHD Lab.のもと、以下の重点項目に取り組みます。

①「東京大学 GATEWAY Campus」の開設

PHD Lab.の拠点として、日本で初めてプラネタリーヘルスをテーマにした新しいキャンパス、東京大学 GATEWAY Campus(約300坪)をTAKANAWA GATEWAY CITY複合棟 I South 9階に開設します。コラボレーションエリアとラボエリアを設け、東京大学の様々なキャンパス(本郷・弥生、駒場、柏、白金台など)と連携しながら、多様な研究室が集う学際的な場として、様々な企業・アクセラレーターとの協創を生み出します。



※画像やレイアウトはイメージです。

② JR東日本グループの資産を活用した実験および先端研究の暮らしへの実装

TAKANAWA GATEWAY CITYをはじめとしたJR東日本グループのインフラを実験フィールドとして、プラネタリーヘルスにつながる東京大学の多様で先端的な知を実証します。また、JR東日本グループのモビリティ事業、オフィス・商業といった生活ソリューション事業にもイノベーションをもたらしながら、ウェルビーイングなくらしづくりにとともに取り組みます。

③ グローバルなスタートアップエコシステムの協創

多様な企業との共同研究の促進や、プラネタリーヘルスをテーマとしたアクセラレータープログラムの共同実施などを通して、大学発ベンチャー数日本一※である東京大学発の起業をさらに促進します。

※経済産業省令和4年度大学発ベンチャー実態等調査より

2 「東京大学 GATEWAY Campus」から生まれる人・街・地球に優しい未来のくらし

TAKANAWA GATEWAY CITYを実験場として、人・街・地球に優しい未来のくらしを創出します。

① 「人にも地球にもスマートな街」 × 情報学・都市設計

街のデータ基盤(都市OS)を活用した新たなスマートシティのあり方を創出します。データを活用して個人に最適な食事をおすすめしながら、街全体のフードロス削減するなど、「ヒト」起点で環境にも優しいスマートシティの実現に取り組みます。



② 「世界ーグリーンな街」 × 農学・環境学

約2.7haの在来種を基調としたグリーンを舞台に、学生や地域の方とともに、世界一豊かで先端的な都市型緑化を目指します。街で栽培した植物を原料として素材を生み出し、商品化までを行うサーキュラーバイオエコノミーにも取り組みます。



③ 「サステナブルな未来の食を試せる街」 × 生物学・工学

未来の食の浸透に取り組みます。オフィスワーカー向けの食堂などで、培養肉などの東京大学発のサステナブルな食材を試せる機会を提供し、顧客のニーズを反映させた未来の食材開発に取り組みます。



④ 「人と地球にウェルビーイングな街」 × 医学・先端科学

ウェルビーイングなくらしのサービスの開発・実証に取り組みます。住宅棟の住民向けに、最先端の睡眠解析アルゴリズムを取り入れた快眠に繋がるサービスを提供します。フィットネスでは、非接触の動作解析システムを実装し、効率的なトレーニングメニューを開発します。



※画像はイメージです。

協創から生まれた知を、TAKANAWA GATEWAY CITYの多様なお客さまとの接点から得られるフィードバックやデータ分析により、実用化に向けて磨きあげます。街での実験により効果が実証されたサービスを、両者のネットワークにより日本各地・世界に広げ、心豊かなくらしづくりを実現します。

3 産学協創の背景

「100年先の心豊かなくらしづくり」に取り組むJR東日本と、「対話を通じて新たな未来を創造する」ことを目指す東京大学の100年間のパートナーシップにより、JR東日本グループのモビリティ事業や生活ソリューション事業を実験フィールドとして活用しながら、最先端の研究をいち早く実用化し、社会課題の解決に取り組むことを目的として、本協定を締結しました。

約150年前の日本で初めての鉄道というイノベーションの記憶を継承し、100年先の未来を見据え、プラネタリーヘルスにつながるくらしづくりにともに挑戦します。



4 「TAKANAWA GATEWAY CITY」を拠点として広がるグローバルネットワーク

本協定により、JR東日本グループと東京大学のネットワークをあわせ、グローバルなスタートアップエコシステムが促進されます。主なパートナーは以下になります。

① シンガポール国立大学

シンガポール国立大学とJR東日本は、2023年9月19日にスタートアップエコシステムの構築に向け、連携協力の覚書を締結しました。シンガポール国立大学が主催する「Global Experience Course (GEx)」と、東京大学が主催する「One Earth Guardians 育成プログラム」が連携し、学生発案によるプラネタリーヘルスの実現の取組みを支援します。

② パスツール研究所

東京大学とパスツール研究所は、2023年10月3日に連携協力の意向趣意書に署名しました。パスツール研究所は日本に「Institut Pasteur du Japon (IPJ)」を置く予定で、その傘下の「Planetary Health Innovation Center (PHIC)」において、東京大学とパスツール研究所が協働していくこととなります。PHICではTAKANAWA GATEWAY CITYを実験の場として活用することを検討しています。

https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z0707_00034.html

今後も多様なパートナーとの連携により、グローバルなネットワークを構築していきます。

【参考】

＜「TAKANAWA GATEWAY CITY」のまちづくり 概要＞

江戸の玄関口としての役割を担った歴史的背景および国内初の鉄道が走った地におけるイノベーションの記憶を継承し、開発コンセプトに「Global Gateway」を掲げ、「100年先の心豊かなくらしのための実験場」として新たなビジネス・文化が生まれ続ける街を目指しています。

複合棟 I および高輪ゲートウェイ駅周辺エリアを2024年度末(2025年3月)に開業し、その他の棟(複合棟 II・文化創造棟・住宅棟)および各棟周辺エリアを2025年度中に開業します。

公式ウェブサイト(<https://www.takanawagateway-city.com>)

